東京 TOKYO LIBRARY

（[illegible]面）　（明治廿五年三月一日遞信省認可）　明治二十六年五月廿四日　（定價金二錢）

時事新報

第三千六百六十三號　水曜日
明治廿六年五月廿四日（辛酉）
舊曆癸巳四月九日
日出午前四時三十一分　日入午後六時四十四分
月出午後零時五十一分　月入午前一時十一分
滿潮午前　午後零時十二分
（西曆一千八百九十三年）

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あ

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月曜休刊

○時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐるもの寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

論より證據

とは人の常に云ふ所にして千百の議論も據る所の事實あるに非ざれば取るに足らずとの意味ならん人言嘖々甲論乙駁、殆んど底止する所を知らず動もすれば其論爭に妨げられて人事の澁滯を致すが如きは浮世の常にして毎度我輩の聞見する所なれども其由て來る原因を求れば事實を探究せざるに坐するもの多し左れば世間幾多の熱心論者も時に或は心事を一轉して前後左右に眼を配り是れまで勢に乘じて論じ來りし其論據の虛實を吟味するとあらば果して大に發明して前論の非を悟り一片の事實能く無量の疑團を氷解せしめて自から釋然たるものある可し在昔英國に學士某あり一問題を揭げて云く器に水を盛りて器と共に先づ其全量を秤り次で其水の中に魚を游がせて更に之を秤るに毫も重量の增さゞるは何故なるやと時の理學者中に向て說明を求めたりしに理論學說に於ては他に一步を讓らざる學者輩のことなれば是式の難問を解くに何かあらんとて種種樣々の說明を呈し甲論乙駁囂々沸くが如くにして底止する所を知らず端なく理學社會に一大波瀾を生じたる折柄、或る素人が其評判を聞き傳へ獨り試に鍾に水を入れて魚を游がせ秤に掛けて事實の如何を見しに何ぞ料らん前後の重量に變なしなど〻は跡形もなき虛說にして魚を入るれば正しく其魚の重さ丈け總體の重さを增すの證據を實留め直に其事實を公けにしければ其當日まで騷がしかりし學者社會の議論は頓に根據を失ひ千萬無量の推理說明も都て是れ無根の空論なりしを悟りて再び口を開く者なかりしとぞ事實を捕へずして漫に空に走るものは學者先生の名論にても當てにならぬことゝ知る可し右は外國數百年前の一笑話にして學者も知る所なれども我國に於ては今日尚ほ之に類似の談なきに非ず殊に古學流の持前として學說と云へば多くは無形の空理を談ずるに止まり事實の探索の如きは寧ろ卑俗のことゝして厭ふ程の次第なれば隨て種々の臆說流言も流行して人を惑はしむるものあるが如し例へば近來內地雜居を非とする者の言に外國人をして自由に內地に入込ましむるときは必ず本國に有り餘れる資本を持來りて以て我國の商權を奪去り日本商人をして居るに處なからしむるに至らん其證據には今日現に外人が本邦人の名目にて內地の工業商賣に注入したる資本は莫大の額にして單に土地のみにても內實彼等の所有に屬するもの一億何千萬圓に達せりなど稱して頻りに外人外資の侵入を心配する者の如くなれども事の實際に於て外國人が我內地の事業に大資本を卸す可き理由はある可らず或は內々我國人の名義を用ひて云はば內外人組合の商店を開く者もある可し我輩も竊に其事情を耳にしたることあれども其事たるや外國人の爲めには極めて危險なる企にして一朝ろの組合の內輪に波瀾を生ずるが如き場合に外國人は權利を保護せんとするも法律の恃む可きものなし斯る危險を冒して莫大の資本を手放すが如きは先づ以て彼等の敢てせざる所にして假令ひ是れあればとて僅々の數たるに過ぎず又或は土地の事に就ても彼の宣敎師の一類が布敎の爲めに都鄙の處々に地面建物を所有し又は商人中の聊か錢を得たる者等が保養の爲めに最勝の地に別莊やうのものを造りたるは事實に掩ふ可らず所謂公けの內證なれども是れとても高の知れたることにして以上一切の實價を總計して何百萬圓に超へざる可し頃日その筋にて內々取調べたる所に據れば外人の所有に係る土地の劵面は都鄙合して四五萬圓に過ぎずと云ふ實價を其二十倍とするも百萬圓に足らず彼の世上に噂する一億何千など云ふ數は唯是れ取留めもなき空想を數字に現はしたるものなりと云ふの外なし內地雜居の是非論は別問題として是にも非にも其議論の根據とする所に事實の確なるものなき以上は問題に入りて爭ふも都て無益の沙汰なれば識者は最初より之に取合ふことなかる可し我輩は唯人事萬般の利害に付き論より證據の勢力あらんことを祈る者なり

官報

○大藏省令第九號

明治十二年（四月）大藏省達乙第二十四號ヲ廢ス

明治二十六年五月二十三日

大藏大臣渡邊國武

大藏省令第九號參照

大藏省乙第二十四號達（明治十二年四月二十二日）　府縣

地方稅金取扱方命令書ノ儀ハ十年第五十號公達命令書案ニ照準シ施行ノ上可屆出候此旨相達候事

雜報

○二十六年度の訴訟入費　沈沒の軍艦千嶋の損害賠償事件に關する訴訟入費を大口として本年度の訴訟費は既に嵩みたれども今後鑛業條例の施行細則を改正し新方針に依て抗法時代に起りたる事件を處分し行かば中には隨分訴訟沙汰となり兼ね間敷ものも之あるべければ是等經費豫算の不足を補充し得べき第一豫備金の乏しきを告ぐる時あるやも測るべからずと噂し居るものもあり

○横濱辯護士會分裂す　横濱に於ける辯護士諸氏は此程同地方裁判所に會合し會長副會長及び常議員等の撰擧を爲したるが右は司法大臣より認可とならざる辯護士會會則により撰擧せしものなれば不法の撰擧なりとて反對者は大に激昂し昨今兩々對峙して反目の姿なりと

○貿易商組合不法撰擧取消の訴　横濱貿易商組合改革派の總代議員片木八重吉氏外十七名の代理者大塚成吉大倉要吉の兩氏同組合總理を被告とし曩に貿易商組合總代會に於て撰擧せし役員撰擧不法取消の訴狀を去る十八日横濱地方裁判所に差出したるが第一回の口頭辯論は來る六月十二日午前九時に開くと云ふ

○貿易商改革派檄文を發す　横濱貿易商組合の改革派片木八重吉氏は今回檄を發して大に市民を警醒する處あらんとする由なるが其要は貿易商維持派諸氏是迄專橫不法の處置を爲し組合員の權理を蹂躙せしは見るに忍びざる處なれば此際飽迄も同志を糾合し正理公明の旗幟を立て曖昧模糊たる維持派の卑劣を曝白し大に改革を爲さんとするにありと

○氣候の不順　八十八夜に先だち疾風迅雨雷鳴降雹あり八十八夜を過ぎて夜寒肌を劈き降霜桑茶を害するあり實に本年は不順の氣候勝にて一週日以前の南風吹荒みたる日は單衣肌に適せし處其後富士近傍の降雪は東京終日雨に苦み暖室爐の戀しき迄に冷氣逆戾りし猶一昨日も昨日も終日雨催す空合にて中々冷氣位の沙汰でなく寒さ甚しくして薔薇や芍藥が花盛りの時節杯とは思へず老人小兒は綿入を襲着して震へ居ると云ふ近年稀なる不順の氣候にて昨今病人俄に增加の傾きあり且つ重體の患者は險く劇動を與ふる由にて農作物にも餘程損害を及ぼせりと云ふ

○忙中閑話

金角江漁

●●●●●人爵用を爲さず●●●●●

春は耕し秋は耘り山に眠り畑に謡ふ田舍人は一丁字を解せざれど天地の大文章を讀み官位の何物たるを知らねど貴人高位に增す樂あり或縣の知事公遊獵に出でたる歸るさ不圖道に踏み迷ひ行けども行けども山又山に日はパタリと暮れて其夜の丑滿頃只ある小村に辿り着きぬ宿からんものと門を叩けど深更ゆゑ泊めぬと皆々斷られ我身柄を知らねばこそ斯くは云ふなんめれと腹立たしく戶もゐわるゝ計りに又其次の門を叩けば何方樣と答ふるに氣を得、余は舊元老院議官勳五等從五位子爵何々縣知事何の某なるが今宵一夜の宿を頼むとあるに內よりは、一人なら宜けれど左程の人數とある部屋はないと言ひ捨てゝ鼾の聲のみ高し

●●●●●似たる事あり●●●●●

涼風に吹かれて心地よげに晝寢する額の上に一疋の蠅とまれり側に居たる白痴者蠅目掛けヅドンと鐵砲打放したるに蠅も失せたれど人も死したり果然として蠅に向て曰く汝の方よりも一疋、我方よりも一疋恨みッこの無い筈なりと世には之に似たる事あり

●●●●●土耳其の婚禮（つゞき）

前に記せしは田
招ぐ日にて何國
殺風景の食事
女の席に列りた
り見しだけの話
家に來らず客け
となるが此日よ
すに及ばす招が
ゝ門前に一圓を
婿と云へは無論
て何故なれば斯
くなれども自ら
兩間の繫事を未
にして窈窕たる
一生の快事にし
へるが如き其男
のに非ず女隊に
や、如何に仲よ
も可愛ゆくもな
もりくて新橋
相抱かんと欲す
生男女不可見の
て相見る嬉しさ
れ偕も我々の思
禮には我々の思
不常離るゝが如
ねば西洋の如く
しき事無けれど
り三伏に移るの
と門內に立ち入
ざりし其女性の
る、のばれは女
る中を過ぎ行き
はわらで是れさ
貨十錢五錢一錢
其下から、私語
抑も此金時は婚
ける金は纏起好
這ひ廻り爭ひ拾
づッと通れば此
たる夫と妻始め
なり咲くは花に
花と花、相並び
く々奇ならん

○各地

●磐城白石地方
の如きは昨年に
て其成繭額は二
より十七八日に
五日頃一眠に就
なしと雖も二三
配一方ならずと
大に驚愕せし模
供給には別段欠
衛門氏は近來益
新築中なり

●三重縣　朝明